

## 池上彰！訂正しろ！



お月参りへ行き、最近参りの後でお話することと言えばコロナの給付金のことです。「10万円も貰いましたか？貰ったのなら何かに使わないと…」と切り出すのが私のパターン。ほとんどの返事が、受け取った夫や息子さんの通帳に入ったままだという。世間では、個人に貰ったのに夫が独り占めして、それが原因で離婚する夫婦が増えています。

以下は、ある日のお参り後の私と檀家のおばあちゃんの会話。(私)「貰った10万円は使って落ち込んだ景気を皆で良くしないとイケないですよ。」

(婆)「息子と孫のために10万円は残しておいてやらないと。この前(5月2日・土)池上彰さんがテレビで、この給付金を支給するために国はまた借金をして、それが1,000兆円に膨れ上がろうとしていて、その借金をいずれ息子や孫が何十年もかけて税金で払い続けるといけないと言っていたよ。」

私は、あの池上彰さんが間違ったこと言うはずがないからおばあちゃんの勘違いだとその時は思いました。だから以下は財政学など全く疎い私が説明を試みてみた→(私)「おばあちゃんが言っている『借金』は、日本が日本からお金を借りるみたいなものだから実際は借金じゃありませんよ。」(婆)「わけわからん??」。(私)「国が緊急に多額のお金がいるようになった時に財務大臣の麻生さんが『お金が入用だから国債出して頂だい』と日銀総裁の黒田さん頼むのです。そうすると黒田さんは『がってんだ！買ってやる！』と気前よく二つ返事でお金を出してくれるのです。その為黒田さんは印刷屋のタコ社長に変身して1万円札を刷るので

す。実際はそういうからくりだから我ら日本国には『借金』などないのですよ。とは言ってもお札を刷りすぎてもだめなのですよ。」(婆)一言ポツリ「池上さんを信じる。」恐るべき『池上彰ブランド』！私は撃沈したのです(汗)。

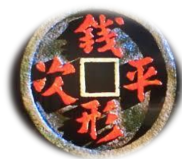
江戸っ子は「宵越しの金は持たぬ」ということで気前よくお金を使いました。単身者や火事が多かったせいもあります。しかしそこには日本人独特の

「お金」に対する考え方があります。



江戸時代の人はお金のことを「お足」と呼んでいました。お金は使った途端に世間に出てあっちこっち走り回ります。

だから「お足」と言う。そして「良縁」も「悪縁」も拾ってまた使った人の懐に戻るという輪廻の考え方です。良い使い方をすればお金が「良縁」を拾って1.5倍になって戻ってくる。逆はそれしかりです。たとえば町の職人が飲酒にお金を使ったとします。気持ち良く呑み今日の嫌な事をきっぱり忘れ、あす精一杯良い仕事ができることにつながれば、お酒に使ったお金は「良縁」を運んでくれます。やけ酒に使ったお金は怒りの「悪縁」を運んでくるでしょう。お金はありがたいものでもあり、身を亡ぼす怖いものでもあります。商人は大事な大きな支払いの折には、小判をザルにのせて弁財天様へお参りし、弁財天様から湧き出ているお水で洗い清めてから使ったそうです。また銭形の親分が投げた銭は、犯人に命中の後、子分の八五郎が回収に行くと、ボーナスポイントで投げた2倍の銭が落ちていたそうです。



でも何故、池上彰氏はおばあちゃんを不安にする間違った解説をしたのでしょうか？ 俊徳丸